



Ground Plan

Osaka University



大阪大学の新世紀

ー 大阪大学グラウンドプラン ー

大阪大学は、江戸期に大坂の地に創設された適塾（1838）を原点とし、さらに遡って大坂の五商人によって開設された懐徳堂（1724）の精神を汲みつつ、学術と教育の機関として発展してきた。大阪大学は、この、藩校ではない市民による市民のための二つの学問所を精神的な源流としており、そのことを大きな誇りとしている。科学的精神とそれにもとづく徹底して合理的な知を追究すること、あわせて深い徳と豊かな教養を磨くこと。この二つをともにめざした適塾と懐徳堂の精神という希有な原点を、大阪大学はいまあらためて思い起こし、それを現代にふさわしく大きく飛躍させてゆかなければならない。「社会に開かれた学府」としての大阪大学は、「地域に生き世界に伸びる」というモットーのもと、次の三つの使命を果たしてゆく。

- 1 創発的研究と基盤的研究を両翼とするハイレベルな研究を推進することで国際的なプレゼンスを高めるとともに、企業・行政と強く連携しながら同時代の社会が抱え込んでいる諸問題に真摯に取り組むなかで、社会からの厚い信頼を得るよう努力する。
- 2 研ぎ澄まされた専門性の教育を深化するとともに、広い視野と豊かな教養をもち、確かな社会的判断のできる「賢明な」研究者・職業人を育てるためのいわゆる教養教育に、低学年から大学院にいたるまで一貫して力を入れる。
- 3 大学から多様な文化を発信・媒介するなかで、地域の文化機関、国際的な文化機関としての大学の役割を積極的に担ってゆく。

これら三つの使命を、教職員から学生、卒業生まで、大阪大学を支えるすべてのメンバーが深く心にとめ、それぞれの場所からその遂行に取り組む。以下では 2008 年という時点でのその取り組みの大きな方向性が示される。全学をあげてのこうした取り組みを通じて、教育・研究から社会連携、大学運営まで、「阪大スタイル」として自他ともに認めうるような、そして全国の諸大学のモデルとなりうるような、「阪大ならではの」特色ある活動と運営のスタイルを築きあげてゆく。「阪大人」としてのプライドとアイデンティティはそのなかではじめて、確固としたものとして生まれるはずである。





究



研究

研究における「基本」と「ときめき」と「責任」を強く意識しながら、基礎研究に深く根を下ろしつつ、科学の新しい地平を切りひらくような先端的な研究をさらに推進する。また、同時代の社会が直面している困難な諸問題に真摯に取り組むことで、社会に対する科学研究の責任を全うする。

研究の活力を最大限に発揮し、国内外の学術機関、企業、行政と強く連携しながら、世界最高レベルの研究拠点大学としての大阪大学の国際的なプレゼンスを高める。





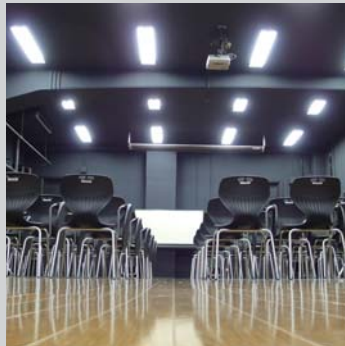
育



教育

高度な専門的知識をもちながら、同時に広い視野と豊かな教養をもって、確かな社会的判断のできる研究者・職業人を育てるため、とくに高学年次における教養教育（大学院では、研究科や専門分野を横断する「高度副プログラム」）に力を入れる。そのために、実地での《フィールドワーク》を授業のなかに積極的に取り込みつつ、「教養」（広い視野に立った確かな社会的判断力）と「デザイン力」（自由なイマジネーションと横断的なネットワーク構成力）と「国際性」（異なる文化的背景をもつ人をよく理解するコミュニケーション能力）を伸ばすことで、問題を複眼的に見る資質を育む。





産学連携

“Industry on Campus” を標語として、産業界と大学とが連携して産業創出拠点を構築してゆくための制度設計と施設整備をおこなう。

社学連携

大阪大学 21 世紀懐徳堂を拠点とし、市民グループ・NPO の活動ならびに「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility) の事業と協力して、多彩な文化・教育事業を推進することで、地域の文化機関としての大学の社会的責任を果たす。





国際交流

旧大阪外国語大学との統合の成果を活かして、「国際感覚」の涵養のための教育を強化する。そのために、まずは学生の外国語運用能力を飛躍的に高め、在学中に海外留学経験をもてるよう大胆な教育改革に取り組む。また、国際感覚をそなえた職員の養成をはじめとする学内の国際化、海外からの研究者・留学生の研究・修学・生活のための環境整備をおこなうことで、国際的な文化機関としての大学の責任を果たす。





場



キャンパス

キャンパスを、〈多様性〉と〈持続可能性〉のモデル空間として、また卒業後も思い出に残る心地よい空間として、整備する。

中之島地区を大阪大学の第四のキャンパス「中之島キャンパス」として位置づけ、中之島センターを産学連携・社会学連携の活動と社会人教育の拠点として再整備することで、大阪の文化と産業の活性化に貢献する。



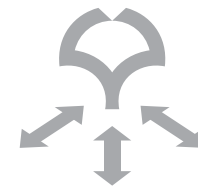


活



大学運営

教育内容を充実させ、冒険的な研究に取り組み、社会連携事業を活性化するにあたって、市民や企業からの厚いサポートが得られるよう、宛先の明確な、そして受け手の側に立った広報活動を展開する。また、大学における教育・研究・社会連携の財政的基盤をより強固なものとするために、募金の推進と基金の確立に組織的に取り組む。



以上の、教育・研究・社会連携における九つの取り組みを、
全国の大学のモデルとなりうるような
「阪大スタイル」として確立する。
そしてこの「阪大スタイル」の確立に、
教員・学生・職員がそれぞれに
積極的に参加することを通じて、
「阪大人」「阪大生」としての確かなプライドを培ってゆく。

2008年11月



